

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400201		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム グレース (東棟)		
所在地	奈良県生駒郡平群町大字越木塚336-1		
自己評価作成日	平成26年12月7日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2971400201-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員で考えた理念を大切に家庭的な雰囲気の中で常にその人らしい生活が出来るように支援しています。広々とした共有部分では車椅子や歩行器での生活も出来るようになってきました。また、日々の生活では、豊かな自然に恵まれた環境の中で、外気浴を楽しみ、戸外でおやつを食べたり歌を歌ったりして生活に潤いが持てるようにしています。月ごとには、地域のボランティアさんに来ていただき地域との密着を図り、季節ごとの行事では、生活に楽しみがもてるように外出レクや外食レクを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、生駒山の高台にあり自然豊かな中、正月には利用者と初日の出を拝んだり御屠蘇の準備をする等四季の感じながら過ごせる様に支援を行っています。ホーム独自の理念を考え目標を作り日々のケアに繋げ、職員は笑顔で利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、一人ひとりがその人らしく過ごせる為にどのように支援するかを考え日々のケアに取り組んでいます。運営推進会議においては参加者の希望から利用者との普段の様子を見てもらえるようにしたり、地域の民生委員、長寿会の方よりボランティアの紹介見学などがあり地域との関わりを大切にしています。ボランティアはハンドベル、民謡、尺八、似顔絵、手品など多彩な来訪があり様々な交流の機会となっています。また、看取りについても医療や職員間で連携し利用者の意向に添えるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を目の止まりやすい所に掲示し、職員全員が共有できるようにしている	事業所の理念について今年度新たに職員が個々に考え、擬態的な目標を纏め各ユニットに掲示しています。玄関には、理念及び職員のケアに関しての思いと写真を掲示しています。また毎週月曜日に理念を唱和する事により意識も高まっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺には、民家がなく日常的な交流は持ちにくい為、ホームに地域のボランティア等を招き入れ交流を図っている	ホーム周辺には民家はありませんが、手品や民謡等の多数のボランティアが事業所を訪れる事により地域の方と利用者の交流の場となっています。また母体のデイサービスに地域の幼稚園児の訪問もあり利用者も参加して交流の機会を持てるように工夫しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に常に何かを発信しているということはないが長寿会、人権擁護委員会等の施設見学を受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回実施し、利用者様の状況報告を行い、ご家族の思いや行政からの意見をサービスに活かす様にしている	会議の参加者は役場福祉課職員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、他事業所のケアマネージャー等により構成され、利用者の現状、行事、運営、人事の報告を行っています。行事を兼ねて開催した際に出された意見により利用者の日常の様子を見てもらい、また新たな意見を聞く事で運営に活かせるよう努めています。	有意義な運営推進会議が開催されていますので、議事録の内容として、サービスの現状、苦情対応などを記載し、参加できなかった方に議事録で報告し伝えられてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には出席して頂き、議事録を提出している。分からない事があれば出向いたり電話で聞いたりしている	運営推進会議の議事録を役場に直接持参しています。また、疑問点等の相談も含め良い関係を構築し協力を得ながら運営しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関前は急な坂 周囲は山という環境から玄関の施錠は行っているが、それ以外のベランダ等は施錠をしていない。身体拘束は行わない事を基本方針としている	身体拘束に関しては法人で年に1回勉強会を実施しています。参加できなかった職員には資料を回覧する事により独自に学び拘束についての理解を深めています。ベランダは施錠しておらず自由に出られるようにして、職員は行動を止めることなく見守り付き添うなどの支援を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で特に入浴時、衣類交換時などに利用者の身体状況を確認することを怠らないようにしている		

グループホームグレース(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年まで実際に利用されていたので職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読み上げて疑問点や不明点がないかを確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会にアンケート調査をしてご家族から意見や要望を聞いている。その内容は運営推進会議で報告しその結果をグループ会議を開き改善等に活かしている	家族の面会時に直接意見や相談を受けています。面会の少ない方には電話等で要望を聞いています。家族交流会においてアンケートを行い、家族の意見をまとめ職員会議で話し合い運営に反映できるように取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月に1度のグループ会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映させている	毎月のホーム会議、ユニット会議では、主に利用者のケアについて話し合いを行っていますが、職員から業務改善やレクリエーションなどの意見や提案、気づきも出され検討し職員間で共有できるようにしています。又、悩みを抱えている職員には日々現場で話を聞くようにし、仕事がしやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情等を考慮したうえで条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に内外の研修に参加する機会が確保されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人施設の職員間で意見交換などしている		

グループホームグレース(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談したり、ケアマネと連携を取り生活情報などのアセスメントを充分にとるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族と面談し家族が困っている事をお聞きし不安感をなくしご要望に出来るだけ添えるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査で計画書を作成し必要であれば医療や他施設の紹介もするようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に家事などのできる部分を手伝っていただいている。教えていただくことが多くあります		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂いたり、グループホーム便りや近況報告で利用者様の生活状態を知っていただき家族と共に本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年に1度であるが家族交流会を開催しご家族で食事ができる場を作っている	家族以外にも知人が面会に来られています。その際自室でゆっくり過ごせるような支援を行っています。また馴染みの美容院への送迎や家族と共に定期的な外出を行う際の調整を行ったり、手紙や年賀状のやり取りについても支援を行いこれまでの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで体操 レクリエーション 洗濯たたみなどをして頂くように支援しています		

グループホームグレース(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族が相談に来やすいように環境整備をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活状況に日頃の言動を記載したり申し送り時に情報を共有している。	入居時に収集した生活歴や習慣、好みなどの情報や、利用者の日々の言動から希望や意向の把握を行っています。意向を伝える事が困難な利用者の言動で汲み取り、全員で記録に残し共有しています。その際に本人の言葉をそのまま記載して情報が伝わりやすくなるようにし、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談時に本人やご家族からお話を聞いたりケアマネからの情報をもとにしている。入所後は出来る限り側に寄り添い昔のお話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来ることを見つけ日頃の生活に生かすようにしている。特に体調の変化については、職員間で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎月行って職員のケアを統一している。グループホーム会議を行いどのようなケアが良いのか話し合っている。	本人や家族の思い、アセスメントの基介護計画を作成し、モニタリングを毎月行い個々の計画の再確認を行い評価し、6カ月ごとに再アセスメントをして見直しを行っています。かかりつけ医、訪問看護師、リハビリ担当者よりの情報も踏まえ、職員家族からの情報を共有し利用者一人一人に合わせた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入を行い職員間で情報を共有している。特記事項は業務日誌に記入するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容室、お買いものなどに付き添っている 帰宅される時には、介護タクシーの手配をしている 必要に応じて職員が受診に付き添っている		

グループホームグレース(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長寿会からマジックのボランティア 民謡のボランティア 個人的には尺八のボランティアなど多くのボランティアを利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後もかかりつけ医にかかって頂いている	利用者や家族にかかりつけ医の希望を聞き決めてもらい、緊急時の対応も個別に応じてもらっています。通院時には事業所での様子を家族に伝えていますが、必要に応じてスタッフがかかりつけ医に状況を伝え適切な医療が受けられるように支援しています。また、医療機関とは24時間連絡、相談できる関係を構築しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と訪問看護との連携、併設施設の看護師とも情報交換を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護情報の提供をする。病院関係者との連絡を取り情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、主治医 訪問看護 ご家族と連携を取り、事業所でできる限りの事はさせて頂くようにしている、	重度化した場合に事業所で行える事について説明をしています。家族の理解と同意の基、担当医の意見も踏まえ方針を確認して希望に添えるように状況に合わせ相談しています。利用者の最後をどのように支援出来るかを考え、可能な限り希望に添えるような支援を行っています。職員は看取りの勉強会に参加する予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当の訓練は行えていないが緊急時対応マニュアルを作成して緊急時の対応に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を行って防災に対する職員の意識を高めている	年に2回の消防訓練を行っています。消防設備保障会社の協力の基、通報から初期消火、避難訓練も含め利用者と一緒にしています。また、地域の消防団と母体の職員の協力が得られる体制を確保しています。	

グループホームグレース(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように言葉使いには気をつけている。プライバシーを損ねないように面会時は居室に入っている	接遇マナー研修を年に1回実施していますが、参加できなかった職員は資料で自己学習を行い、日々の言葉使い等不適切な場合は職員間、管理者がその都度注意を行っています。特に排泄時の直接的な言葉や誘導時の声掛けは十分な配慮を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との日常会話の中で思いをお聞きし判断できる部分は自己決定を促している、		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は作成しているが利用者様のペースで過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選びアクセサリーをつけたり美容室に行き好みのヘアスタイルにされている。暑い寒いかわからなくなっている利用者様には、職員が支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設されている厨房から届けています。食事レクの日を作り回転すしなど楽しんでもらっています。	法人の厨房で調理された食事が3食とも届けられています。月に2回の食事レクリエーションでは利用者と一緒におやつ作りを行い出来る事に携わってもらいながら行っています。また定期的に外食を楽しむ機会も設けています。法人で行われる給食会議には担当職員が参加し、意見を出して食事に対する提案も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し職員間で情報を共有し体調に合わせた食事形態にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に合わせた介助をしています。口腔状態は歯科医師、訪問歯科により管理されている		

グループホームグレース(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し声掛けやトイレ誘導を行っている	排泄チェックを行うことにより個々のリズムを把握しその人に合わせトイレの誘導を行っています。また、おむつの種類を検討する事で夜間安心して眠る事ができるようになり、日中でもトイレの失敗が少なくなった事例もあり自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確認と毎朝の牛乳とヨーグルトの提供 体操などの運動でなるべく自然な排便をうながしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回午前中に行っている。便失禁のあった利用者様にはその都度シャワー浴をしている。職員とゆっくり会話しながら入浴して頂いている	入浴は利用者の希望を聞いたり体調に合わせて対応しています。入浴を拒む方には、無理に勧めることなくタイミングと声かけを工夫しています。また個人の好みの石鹸やシャンプーを使用し、つろいだ気分で入浴できるよう心がけて支援しています。希望があれば毎日でも入浴支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室へ自由に行き来して頂いている。ソファでテレビを観たりうたた寝をしたり、ベッドで横になったりと体調や状況に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報とてらし合わせて全員が把握できるようにしている。薬の変更などがあるときには、申し送りをして間違えのないようにしている。服薬の際には職員は名前と日にち朝昼夕と声を出して確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意とすることを生かし楽しみや気分転換をはかっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わっていただくために天気の良い日は施設周辺を散歩して頂き、たまに、戸外でおやつを食べて頂き閉塞感がないようにしている。外食レク、外出レクなどは、計画を立てて行っている	天候と体調に合わせて施設の周りを散歩したり、テラスで外気浴を行っています。季節の行事では花見やイチゴ狩り、紅葉狩りなど外出の機会を設けています。またドライブや買い物に出かけたり足湯を楽しみに出かける事もあります。個別の外出の支援も行い、日頃から外出の機会を持てるように心掛けています。	

グループホームグレース(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者様は自己管理をされています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族に電話をかけ直接、話ができるように支援している。手紙のやり取りも自由にして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者様にとって居心地良く過ごすために季節に応じた飾り付けや作品を展示している	玄関やリビングには手作りの作品や写真が飾られテラスには季節の花をプランターで育てられ季節感がある雰囲気になっています。リビングは開放的で車いすでの移動の動線も配慮しゆっくりと過ごす事が出来る、落ち着いた空間を作っています。テーブル、イスの配置についても好きな場所で自由に過ごせるように支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やホールで自由に過ごせるようにソファをテレビの前だけではなく、ベランダから外を眺めることができる場所に置いたり、居室近くに設置して工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化が少ないように慣れたものを使用していたりご本人が大切にされているものを持ってきて頂いている	居室は明るく、すっきりと整頓され毎日換気をしていて清潔感があります。お気に入りのぬいぐるみや家族の写真、仏壇等馴染みの物を持って来て生活しやすいように配置し、一人ひとりにあった居心地の良い空間を工夫しながら作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて環境を整えるなどして安全に生活できるように努めている		